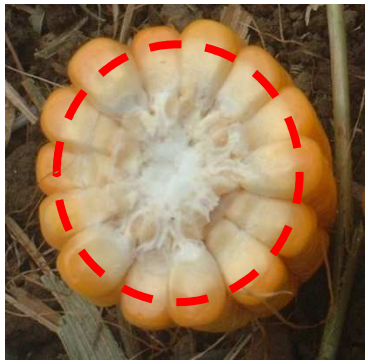
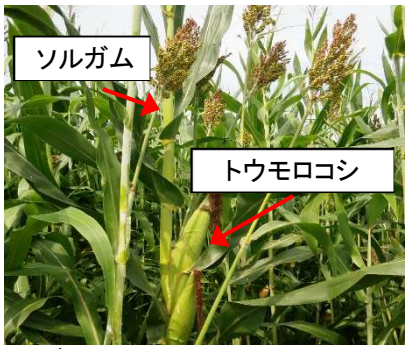
５　畜　　産

項　　目	作　　業　　内　　容
	（今月の作業のポイント） ○飼料作物の収穫 ○ツマジロクサヨトウの対策
（１）飼料作物の収穫	８月は飼料作物の収穫時期であるが、台風の接近数や上陸数が年間で一番多い月であり、台風は不規則な経路をとることが多いため台風情報には注意する。また、強風により飼料作物が倒伏すると収穫時に泥が混入し、サイレージの品質が低下するため、風雨の影響が予測される場合には早めに収穫する。 なお、この時期の収穫作業は熱中症予防に留意し、作業時は帽子の着用や通気性の良い服装を心がけるとともに、こまめな休憩と水分補給を行う。 ア　トウモロコシ （ア）飼料用トウモロコシの収穫適期の判定方法 サイレージの乳酸発酵に必要な水分含量（65～70%）であり、糖含量が高い黄熟期を目安に収穫する。 黄熟期の判定は、雌穂中央部を折り、断面を見て粒の硬い部分と柔らかい部分の境界（ミルクライン）の位置で判定する。なお、写真１の赤い点線がミルクラインで、収穫適期である。  写真１　収穫適期の雌穂の断面（ミルクラインの位置は約 40%） 硬化した黄色い部分が全体の30%程度であれば糊熟期段階であり、40～50%のところまで達していれば黄熟期である（写真１）。刈り遅れは収量低下や消化性の低下（栄養価減少）につながるため、ミルクラインが40%に達した時に収穫を開始し、50%になる頃までに収穫を終えるようにする。 （イ）飼料用トウモロコシサイレージの収穫調製方法 切断長の目安を１cm程度とすることで、サイレージ密度が高まり発酵品質は向上する。

項　　目	作　　業　　内　　容
	イ　ソルガム 　収穫適期は、糖含量が高い乳熟期から糊熟期（概ね出穂後２～３週間）、トウモロコシと混播（写真２）した場合は、トウモロコシの黄熟期が適期となる。刈取りは、ソルガムの再生を促すため、地上10～15 cmを目安に高刈りする。収穫後は、窒素、カリを、10ａ当たり各10 kg施肥し、再生芽が出始めた頃に各５kg程度を追肥する。  写真２　トウモロコシとソルガムの混播
（２）ツマジロクサヨトウの対策	ツマジロクサヨトウは、幼虫がトウモロコシやソルガムの葉等を食害する害虫で、県内では2019年に初めて確認され被害が発生している。特に、二期作目の飼料用トウモロコシの７～８葉期に大きな被害が発生している。被害低減には、早期発見、早期防除が重要である。幼虫は、トウモロコシの中心部（成長中の葉が巻いている芯の部分）に潜り加害するため、定期的な見回りを行い、早期発見に努める。疑われる虫を発見した場合は、登録された農薬により早急な防除を行う。 写真３　ツマジロクサヨトウの幼虫と食害されたトウモロコシ 　農薬の使用にあたっては、用法・用量を遵守し周辺作物への飛散（ドリフト）に注意しながら、新葉の葉しょう基部に潜り込んでいる幼虫に届くよう、株上部までしっかりと散布する。 　なお、老齢幼虫になると農薬の効果が低下するため、可能な限り若齢幼虫のうちに防除する。また、収穫できる場合には農薬は使用せず、直ちに収穫・調製し、刈取り後は、地表に落ちた幼虫や土中のさなぎの駆除をするために、速やかに耕うんを行う。 【ツマジロクサヨトウ登録農薬】（令和３年３月31日現在） 　ア　飼料用トウモロコシ（２剤） 　　（ア）BT水和剤（19899、22653、22654、23884） 　　（イ）カルタップ水溶剤 　イ　飼料用ソルガム（１剤） 　　アセフェート水和剤

（作成　畜産研究センター）